



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

うつ病

脳は、たくさんの神経細胞が立体的な網目状に張り巡らされ、神経細胞同士が情報を交換して巨大で複雑なネットワーク（神経回路）を作ること、機能しています。この神経細胞同士が情報を交換する際には、ノルアドレナリンやセロトニンなどの神経伝達物質が橋渡しの役目をしており、神経伝達物質の量が減少したり、働きが悪くなると、神経回路の機能が低下することがあります。

うつ病の原因は、まだはっきりとは判っていませんが、神経伝達物質のバランスの乱れがひとつの原因ではないかと考えられています。「大切な人（ペット）との別れ」「大切なものを失う」「人間関係や仕事でのトラブル」などの環境要因や「几帳面」「仕事熱心」「正義感が強い」などの性格も発症要因のひとつとなります。また、遺伝的要素も若干あるのではないかといわれています。

うつ病の治療薬は抗うつ薬と呼ばれ、数種類に分類されています。いずれの薬も効果が表れるまでに2週間程度かかるので、途中でやめずに服用を続けることが大切です。

選択的セロトニン再取り込み阻害薬（SSRI）は、神経伝達物質のひとつであるセロトニンの働きを高める効果があります。セロトニンが不足すると、不安や気持ちの落ち込み、無気力などがあらわれるため、それらの症状の改善が期待できます。副作用は、特に服用を始めた初期には吐き気やむかつきなどの消化器症状が起こることがありますが、服用を続けていると治まることがあります。また、服用を急に中止すると頭痛などの副作用が起こることがあるので、服用をやめる場合には医師の指示に従って徐々に減量することが必要です。

セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬（SNRI）は、セロトニンのほかノルアドレナリンの働きを高める作用があります。ノルアドレナリン

もセロトニンと同じく、不足すると気持ちの落ち込みなどが起こるとされています。副作用は、消化器症状のほか排尿しにくくなったり、脈が速くなったりすることがあります。

ノルアドレナリン作動性・特異的セロトニン作動性抗うつ薬は、SNRIと同様の効果がありますが、副作用に違いがあり、眠気や体重増加などです。

三環系抗うつ薬と四環系抗うつ薬は、SNRIなどが発売されるまでは、うつ病治療薬の中心として使用されてきましたが、副作用が多いなどの理由で最近では使用されることが少なくなっています。

うつ病の治療は、抗うつ薬だけでなく休養や精神療法などを合わせて行うことが一般的です。もし、気分の落ち込みなどが続くようであれば、一度医療機関を受診されることをお勧めします。

（北区）薬局エビソファーマシー

松本博志